

# 教職科目「生徒指導」の カリキュラム開発に関する一考察 —大学のテキスト分析を中心として—

田代 直人\*・佐々木 司

A Consideration on the Curriculum Development of Teacher Training Courses: Analyses of the  
Textbooks for the Student Guidance Classes

TASHIRO Naoto\*, SASAKI Tsukasa  
(Received January 15, 2008)

キーワード：生徒指導、カリキュラム開発、テキスト分析

## 1. 研究のねらいと方法

大学における講義内容は、基本的に各講義担当者に委ねられている。そのため担当者は独自性を発揮できるが、講義内容が自分の研究成果に依存したもの、視野の狭いものになるおそれもある。筆者はこうした反省を踏まえて、ここ数年その分野の基礎・基本を中心とするテキスト開発に当たってきた。田代直人・佐々木司編「教育の原理」(ミネルヴァ書房、2006年)、田代直人編「生涯学習時代の教育と法規」(ミネルヴァ書房、2003年)などである。これらのテキストは基礎・基本をねらいとして編集したが、結局のところ編集者の主観に基づくものであり、そこに限界があった。

本研究は、このような限界にチャレンジする一つの試みとして、テキストの分析をおこない、カリキュラム開発に当たっての参考資料を提供しようとするものである。分析の対象は教職科目「生徒指導」のテキストとした。対象としたテキストは、1990年以降に出版されたもののうち、入手することの出来た次の13冊である。

- 【1】丸井文男監修・岩井勇児編集『生徒指導』協同出版、1991年(初版)
- 【2】隠岐忠彦・佐藤修策編著『生徒指導概論—一人一人を生かす教育的かかわり』川島書店1993年(第1刷)
- 【3】鑓幹八郎編『生徒指導論』福村出版、1993年(初版)
- 【4】岸田元美監修、河合伊六・佐藤修策編『改訂 生徒指導—新しい教育改革をふまえて—』北大路書房、2001年(改訂版第8刷)
- 【5】原田信之編著『心をささえる生徒指導—生徒支援の理論と実践—』ミネルヴァ書房、2003年(初版第1刷)

---

\*山口学芸大学

- 【6】高橋一編著『生徒指導の理論と実践』学文社、2003年（新訂版第2版）
- 【7】江川玟成『生徒指導の理論と方法 改訂版』学芸図書、2004年（第7刷）
- 【8】寺田晃・佐藤怜『生徒指導』中央法規、2004年（初版第6刷）
- 【9】小林利宣・倉田侃司編著『生徒指導』ミネルヴァ書房、2004年（初版第12刷）
- 【10】秦政春『生徒指導』放送大学教育振興会、2004年（改訂版第2刷）
- 【11】代表高橋哲夫／仙崎武・藤原正光・西君子編『新訂 生徒指導の研究－生徒指導・教育相談・進路指導，学級・ホームルーム経営－』教育出版、2005年（2版第5刷）
- 【12】新井郁男・住田正樹・岡崎友典『新訂 生徒指導』放送大学教育振興会、2006年（第1刷）
- 【13】中野目直明・小川一郎編著『現代の生徒指導』文教書院、2006年（第3版第4刷）

## 2. 章・節の分類

まずテキストの章・節を、次のような観点から分類してみた。すなわち、①基礎的・総論的(概括的)分野 ②内容的・方法的分野 ③児童・生徒理解 ④生徒指導と学級経営 ⑤問題行動 ⑥生徒指導の実践 ⑦進路指導 ⑧教育相談 ⑨生徒指導の組織体制と指導計画 ⑩生徒指導の評価 ⑪その他、である。なお、各テキストは上記の番号（[1]～[13]）で示した。

### （1）基礎的・総論的（概括的）分野

- ・生徒指導の意義と課題【4】・・・生徒指導の意義、生徒指導の課題
- ・生徒指導の意義と課題【5】・・・生徒指導の充実、人格形成機能からとらえる生徒指導の意義、感情の領域へのアプローチ
- ・生徒指導の意義と課題【7】・・・生徒指導の概念と目的、生徒指導の領域・内容、生徒指導の今日的課題
- ・生徒指導の教育的意義【9】・・・生徒指導はこれでよいか、生徒指導の目的、生徒指導の機能と課題、教育課程と生徒指導
- ・生徒指導の課題【2】・・・生徒指導とは一意義、課題、生徒指導の過去と現状－現代思潮と生徒指導の現状、生徒指導の基本的問題
- ・生徒指導とは何か【13】・・・生徒指導の意義は何か、現代の学校における生徒指導とは、生徒指導の内容と方法、生徒指導の取り組む課題とは何か、生徒指導と生活指導とはどう違うか
- ・生徒指導の理論と歴史【6】・・・生徒指導論の系譜、生徒指導の歴史と概念、生徒指導の原理と機能、生徒指導の今日的意義と課題
- ・生徒指導の理念と歴史【12】・・・生徒指導についての沿革、機能としての生徒指導、すべての児童生徒が生徒指導の対象、学校間および家庭・地域社会等との連携、生徒指導と生活指導
- ・生徒指導の機能と目的【5】・・・生徒指導の特色、生徒指導の歴史と用語、生徒指導の定

義、生徒指導の目的、生徒指導の内容、生徒指導の領域論と機能論

- ・生徒指導の機能と方法【9】・・・生徒指導の内容、生徒指導の方法、小学校における生徒指導、中学校における生徒指導、高等学校における生徒指導
- ・学校機能としての生徒指導【12】・・・学校教育の基本的性格、社会過程としての教育、学校の統一的役割と分化的役割
- ・生徒指導の原理【4】・・・生徒指導と人間観、自己指導能力の育成、生徒指導の方法（個別指導の原理、集団指導の原理）
- ・生徒指導の体系と課題【8】・・・子どもの学校生活、生徒指導とは、生徒指導の今後の課題
- ・生徒指導の理念と実際【10】・・・「非行対策」に傾斜した生徒指導、規範的組織としての学校、集団依存を求める学級経営、生徒指導と人権教育、教師の人権意識・人権感覚、家庭教育の変容
- ・生徒指導の理論と方法【11】・・・生徒指導の基本課題、生徒指導の意義・ねらいと性格、生徒指導の歴史と理論、生徒指導の方法（進め方）、生徒指導の組織と計画
- ・学校教育と生徒指導【1】・・・生徒指導についてのイメージ、教育と治療、行動の予想と発達観
- ・教育と生徒指導【3】・・・教育の本質とは何か、現代の学校教育、生徒指導に求められるもの
- ・戦後の生徒指導はどう移り変わったか【13】・・・時代の変遷で生徒指導はどう変わったか、現代社会における学校と生徒の変化、生徒指導の方法原理は何か、未来を切り開く生徒指導はどうあるべきか

## （2）内容的・方法的分野

### ①内容的分野

- ・学習指導と生徒指導【1】・・・学習指導と学校生活への適応、学習指導と生徒指導との関連、学習指導とかわりながら展開する生徒指導の実践
- ・特別活動と生徒指導【1】・・・学習指導要領からみた特別活動と生徒指導、児童会・生徒会活動と校則、クラブ活動・部活動、学校行事と国旗掲揚・国歌斉唱
- ・開発的生徒指導【2】・・・積極的生徒指導、教育課程と生徒指導、生徒指導と教育相談、生徒指導と進路指導
- ・道徳教育と生徒指導【3】・・・価値形成と生徒指導、問題行動と生徒指導、青年期の生き方と生徒指導
- ・学校教育の基本構造と生徒指導【3】・・・学校教育の目的と生徒指導、教科外・特別活動（学級・ホームルーム）と生徒指導、教科指導と生徒指導
- ・生徒指導と教育課程【4】・・・教科、道徳、特別活動、進路指導
- ・生徒指導と教育課程との関連【7】・・・教科、道徳、特別活動
- ・教育課程と生徒指導のかかわり【13】・・・教育課程と生徒指導の関係とは、教科と生徒指導を考える、道徳教育と生徒指導のかかわりを考える、特別活動と生徒指導を考える、

## 生徒指導の評価

### ②方法的分野

- ・個別指導～ガイダンスとカウンセリング【5】・・・個別指導の基礎としてのガイダンス理論、個別指導の考え方と進め方、反省的实践家としての教師、学校におけるカウンセリングの考え方、学校におけるカウンセリングの進め方
- ・生徒指導の方法～個別指導【7】・・・教育相談の意義と目的、教育相談の理論、相談担当者の基本的態度、教育相談のすすめ方、学校教育相談の限界、家庭・関係機関との連携
- ・個別指導【13】・・・個別指導の基礎としてのガイダンス理論、個別指導の考え方と進め方、教師期待効果、学校教育相談の考え方、学校教育相談の進め方、カウンセリング・マインド
  
- ・生徒指導の方法～集団指導【7】・・・集団指導の意味と意義、集団指導の形態、集団活動の指導、集団の評価と集団指導の観点
- ・集団指導【13】・・・集団指導の意味と意義、集団指導の考え方、集団指導の進め方、心理学的グループ・アプローチの応用
  
- ・生徒指導の方法【1】・・・生徒指導方法の基礎理論、生徒指導の日常的行動の心理
- ・生徒指導の方法論【6】・・・生徒指導の方法論、生徒指導と教科指導の関係、生徒指導と道徳の関係、生徒指導と特別活動の関係、生徒指導の関連事項
- ・生徒指導の方法【8】・・・生徒理解の方法、個別的指導、集団的指導
  
- ・生徒指導の内容と方法【3】・・・生徒指導の目的と本質、生徒指導の内容の検討、生徒指導の方法上の原則

### (3) 児童・生徒理解

- ・生徒理解とその方法【1】・・・教師の子どもを見る目、生徒理解のための情報の収集と利用、生徒理解と教師の成長
- ・生徒理解の実際【2】・・・心理臨床における診断、パーソナリティ研究法、生徒の心理・生理・社会的条件の理解、個人史の理解、パーソナリティ検査の実際、まとめ—A君の場合を通して
- ・生徒理解【4】・・・生徒指導と生徒理解の関係、生徒理解の観点、生徒理解の方法、生徒の自己理解の指導
- ・児童生徒理解の方法【5】・・・児童生徒理解の原理、児童生徒の自己理解、教師の自己理解、児童生徒理解のための資料とその収集方法、個の理解
- ・児童・生徒理解【7】・・・児童・生徒理解の意味と機能、児童・生徒理解の領域・内容、児童・生徒理解のための資料収集の方法
- ・生徒の理解【13】・・・生徒理解の考え方、生徒理解をどう進めるか、観察法、テスト法(検査法)、事例研究法(ケース・スタディ)、資料の収集・分析・活用

### (4) 生徒指導と学級経営

- ・学級経営と生徒指導【1】・・・学級集団の特質と構造、友人関係の諸相、教師と生徒の人

間関係、学級集団における集団指導、学級経営と家庭

- ・生徒指導と学級経営【4】・・・学級における生徒指導、学級集団の特質と機能、学級担任教師の生徒指導上の立場と役割
- ・集団指導～学級経営【5】・・・集団指導の意味と意義、集団指導の考え方、集団指導の進め方～グループ・ダイナミックス、サイコエジュケーションー育てるカウンセリング、学級崩壊の問題と対応
- ・学級・授業の「荒れ」と子どもたち【10】・・・「学級崩壊」は新しい現象か、学級崩壊と授業妨害、教師からみた学級・授業の「荒れ」、子どもたちからみた学級・授業の「荒れ」、学級・授業の「荒れ」の背景、増加する不登校の子ども、不登校問題と公教育
- ・学級経営の理論と方法【11】・・・学級・ホームルーム経営の基本的課題、学級・ホームルーム経営の意義・ねらい・役割、学級・ホームルーム経営の方法・進め方、学級経営の組織と計画、学級経営の評価
- ・学級担任は生徒指導をどのように進めたらよいか【13】・・・学級経営における生徒指導とは、学級づくりをどう進めるか、学級担任は問題行動生徒の指導をどう進めるか、学年・学校と学級担任の連絡は、家庭・地域との協力をどう進めるか

#### (5) 問題行動

- ・問題行動の理解とカウンセリング【1】・・・問題行動とは何か、問題行動の理解、問題行動の指導
- ・欠席の理解と指導【1】・・・欠席とは何か、長期欠席、登校拒否事例へのアプローチ、登校拒否事例の家族援助、登校拒否と関連機関
- ・非行の理解と指導【1】・・・非行とは何か、学校内外における非行の実態、非行の心理を理解する、学校における非行の子どもの指導、非行克服の専門機関と学校の協力
- ・生徒にみる問題行動（1）～パーソナリティの問題【2】・・・緘黙、内向、退行、孤立、登校拒否、怠学、家出、自傷、自殺
- ・生徒にみる問題行動（2）～行動上の問題【2】・・・非行、窃盗(盗み)、暴走行為、薬物乱用、性非行、校内暴力、いじめ、家庭内暴力
- ・生徒にみる問題行動（3）～個人病理の問題【2】・・・心身症、神経症、人格障害一境界例、精神分裂症、躁うつ病、てんかん、非定型精神病
- ・発達と問題行動【4】・・・生徒指導と発達、児童期・青年期の心理的特質、児童期・青年期の問題行動、問題行動と教師
- ・生徒指導と非行対策【4】・・・青少年非行の傾向と特質、学校における非行、家庭および地域における非行、健全育成活動および保護育成活動
- ・問題行動といじめ【5】・・・問題行動とは、問題行動のレベル、いじめの実態、いじめへの対応のために
- ・問題行動と生徒指導【6】・・・問題をかかえる生徒に対する指導、生徒の非社会的問題行動、生徒の反社会的問題行動、問題行動と懲戒、問題行動と関係機関・施設
- ・問題行動の理解と指導【7】・・・問題行動の種類・原因、早期発見と治療・予防対策
- ・生徒指導の演習【8】・・・非行の指導、不登校・登校拒否の指導
- ・非社会的な児童・生徒の指導【9】・・・中2になって登校拒否を繰り返したT君の事例と指導、不登校の主因は何であったか、非社会的行動児の生徒理解(児童理解)、指導・助言

を前提とした生徒理解への提言

- ・反社会的な児童・生徒の指導【9】・・・児童・生徒の反社会的行動、反社会的行動の指導、反社会的行動の指導の実際
- ・学習困難な児童・生徒の指導【9】・・・学習困難な児童・生徒とは、学習困難な児童・生徒の原因とその発見、学習困難な児童・生徒の指導の実際
- ・いじめ問題と子ども【10】・・・いじめは「沈静化」してきているか、いじめの発生に関する推移、最近のいじめの状況、いじめられている子どもたち、いじめに対する子どもたちの意識
- ・子どもたちのいじめ行為の特質【10】・・・いじめという行為の特質、いじめの構図、いじめの構造と加害者、いじめと集団、いじめ指導に関する視点
- ・非行・問題行動に関する推移【10】・・・少年非行に関する推移、「荒れる」子どもたち、教師に対する子どもたちの問題行動、より悪質な非行・問題行動の発生、非行・問題行動と「管理的」生徒指導
- ・問題行動の現状【12】・・・問題行動とは何か、問題行動の類型、問題行動の主体、学校現場における問題行動、発生の原因とメカニズム、問題行動への対応
- ・非行・問題行動【13】・・・非行と問題行動とは、反社会的行動と非社会的行動の意味、時代の変化で問題行動はどう変わったか、発達と問題行動について、校則を考える、特別指導とは
- ・いじめに生徒指導はどのように対応するか【13】・・・現代の学校教育といじめ、いじめの実態、いじめと子どもの人権、いじめへの対応
- ・不登校・高校中途退学に生徒指導はどのようにかかわるか【13】・・・不登校に生徒指導はどのように対応するか、不登校の実態、不登校への対応をどうするか、高校中退とは、高校中退への対応をどうするか

#### (6) 生徒指導の実践

- ・生徒指導の実践【6】・・・小学校の生徒指導、中学校の生徒指導、高等学校の生徒指導、家庭・地域社会と生徒指導
- ・小学校における生徒指導【12】・・・小学校生徒指導の意義、児童理解の基本的立場、小学校生徒指導の活動と内容の実際
- ・中学校における生徒指導【12】・・・中学校生徒指導の意義、中学校生徒指導の課題と活動内容、中学校生徒指導の校内体制、中学校生徒指導の方法—荒れた学校の再生
- ・高等学校における生徒指導【12】・・・新制高等学校の歴史的な展開過程、大都市地域における高校生の生徒指導の展開、学校と地域社会の連携

#### (7) 進路指導

- ・進路指導と生徒指導【1】・・・進路指導の意義と基本的性格、中学校・高等学校の教育課程と進路指導、進路指導の一層の充実を図るには
- ・生徒指導と進路指導【6】・・・学歴社会と進路指導、進路指導の意義と原理
- ・進路指導【5】・・・進路指導の意義と目的、進路指導の定義、進路指導の理論、進路指導の実践、進路指導上の今日的課題、進路指導と評価機能の問題

- ・進路指導【7】・・・進路指導の目的と内容、進路指導の計画と実践
- ・進路指導の理論と方法【11】・・・進路指導の意義と性格、進路指導の歴史と理論、進路指導の組織と計画、進路指導の方法と評価、進路指導の課題と展望
- ・人間としての生き方、進路指導と生徒指導のかかわり【13】・・・在り方生き方教育とは、人間としての生き方と進路指導・生徒指導、生徒指導と進路指導のかかわり、生き方としての生徒指導の充実

#### (8) 教育相談

- ・学校における教育相談【1】・・・学校における教育相談の意義、学校における教育相談の組織・運営、カウンセリングマインドの形成、学校と家庭との連携
- ・生徒指導におけるカウンセリングの理論と実際【2】・・・精神分析療法、クライアント中心療法、行動療法
- ・教育相談と生徒指導【3】・・・学校教育相談、学校での教育相談体制、専門機関との連携
- ・生徒指導と教育相談の実務問題【3】・・・生徒指導における記録と評価、学校での心理検査の利用、地域の社会資源の認識と働きかけ
- ・学校教育相談【4】・・・教育相談の意義と役割、教育相談の理論と方法、教育相談の治療技法、学校教育相談の担当者、学校教育相談の限界
- ・生徒指導とカウンセリング【6】・・・カウンセリングの意義、カウンセリング・マインドと生徒指導
- ・教育相談と進路指導【9】・・・生徒指導・教育相談・進路指導の関係、教育相談、進路指導
- ・教育相談の理論と方法【11】・・・教育相談の意義とねらい、教育相談の歴史と理論、教育相談を支えるカウンセリングの諸理論、教育相談の進め方、教育相談の技法とその実際例
- ・問題行動の理解とカウンセリング 1【12】・・・心理劇とロール・プレイング法、ロール・プレイング法の構成要素、ロール・プレイング法の実施過程、ロール・プレイング法の効果、ロール・プレイング法の実際

#### (9) 生徒指導の組織体制と指導計画

- ・家庭と生徒指導【3】・・・問題生徒と家庭、家庭における生徒の指導、家庭と学校、家庭の教育力
- ・生徒指導の体制と制度【4】・・・校内の指導体制、生徒指導の年間計画、生徒指導推進のための研修、地域との連携・協力、生徒指導の制度および法律
- ・生徒指導の組織【6】・・・生徒指導と指導体制、生徒指導の組織と運営
- ・生徒指導の組織と計画【7】・・・生徒指導の組織体制、生徒指導における外部機関の活用
- ・生徒指導と地域社会の関わり【12】・・・「学校評議員制度」「コミュニティスクール制度」、地域の教育力と子どもの居場所、地域社会と教育の関係、放送教材の構成
- ・生徒指導の課題【12】・・・現代社会と生徒指導、学校内の生徒指導体制と関係機関との連携・協力
- ・生徒指導と学校の指導体制はどのようにかわるか【13】・・・生徒指導の組織とは、生

徒指導担当教師とその役割、組織をどう運営するか、家庭や関係機関とどう連絡するか、生徒指導と研修

- ・問題行動の理解とカウンセリング 2【12】 ・ ・ スクールカウンセラーの概要、スクールカウンセラーの役割とカウンセリングの方法、生徒たちへの援助、教員との協力・援助 ・ 教員への研修会、保護者への援助

#### (10) 生徒指導の評価

- ・生徒指導の評価【6】 ・ ・ 生徒指導の評価の原理、生徒指導と「生徒に対する評価」、生徒指導と「教師を対象とした評価」、新学習指導要領と生徒指導の評価

#### (11) その他

- ・保健室来室者の理解と指導【1】 ・ ・ 心身の健康と保健指導、養護教諭の関わり、養護教諭が困っていること、養護教諭と連携
- ・生徒指導と精神保健【2】 ・ ・ 学校教育・生徒指導と精神保健、教師と精神保健
- ・生徒の心理的発達と生徒指導【3】 ・ ・ 児童期と青年期の心の発達、教師と生徒におけるストレス、心理的健康教育と開発的生徒指導
- ・現代の青少年と生徒指導【3】 ・ ・ 現代社会の中の青少年、社会の病理と青少年の病理、生徒指導と社会資源の活用
- ・教師と生徒指導【3】 ・ ・ 教師の役割、生徒の生活と自己指導能力、教師集団と生徒指導
- ・諸外国における生徒指導の動向【3】 ・ ・ 生徒指導体制の国際比較、校則（生徒規則）の国際比較、学校制服文化の国際比較
- ・発達の理解と生徒指導【5】 ・ ・ エリクソンのライフサイクル論からの問いかけ、エリクソンのライフサイクル論の概観、発達の観点からみた生徒指導の諸課題、全生涯を射程に入れた生徒指導
- ・人間関係の心理【8】 ・ ・ 人間関係論、友人・家族関係の調整
- ・新・治療理論【8】 ・ ・ 家族療法、短期療法、学校を中心としたアプローチ
- ・基本的生活習慣の指導【9】 ・ ・ 基本的生活習慣とは、基本的生活習慣の実態と問題点、基本的生活習慣を育てる指導の実際
- ・現代社会のひずみと子ども【9】 ・ ・ 現代っ子の断面、居場所なき学校生活、甘い家庭生活、荒れる地域社会、現代社会の圧力
- ・群衆の中の青少年：アラカルト【9】 ・ ・ 性意識・自意識・恋愛感情、青年期と疎外感、寛容社会と新しいモラトリアム、誤ったコミュニケーション言語、「すいません」を連発する女子学生
- ・教師集団の人間関係の崩れ【10】 ・ ・ 荒廃した教師集団の人間関係、教師集団の人間関係が混乱する原因、教師同士のいじめ、教師同士のいじめの「現実」、教師同士のいじめ構造、教師集団の人間関係と教育実践、教師集団の人間関係と1人ひとりの教師、教師集団の人間関係と子ども
- ・子どもたちのストレス【10】 ・ ・ いまの子どもたち、子どもたちのストレス状況、ストレスの原因、多忙な子どもたち、受験のプレッシャー、過剰な親の期待
- ・ストレスと非行・問題行動【10】 ・ ・ 深刻な子どもたちのストレス状況、ストレスのた

まっている子どもたち、ストレスと極端な身体的不調、ストレスと学校の内部で生じている問題行動、ストレスと教師に対する問題行動、ストレスと非行行為

- ・教師のストレス【10】・・・疲れきった教師たち、教育とストレス、教師の仕事とストレス、教師のストレス状況、ストレスの原因
- ・教師のストレスによる悪影響【10】・・・深刻な子どもたちのストレス状況、ストレスのたまっている子どもたち、ストレスと極端な身体的不調、ストレスと学校の内部で生じている問題行動、ストレスと教師に対する問題行動、ストレスと非行行為
- ・子どもたちの規範意識【10】・・・規範意識の崩れ、善悪の基準の崩れ、非行・問題行動に対する意識、小・中・高校生の規範意識、非行・問題行動の経験と曖昧な理由、非行・問題行動の経験と罪悪感の欠如、子どもの社会に存在した「規範」の崩れ
- ・組織的でゆるやかな生徒指導【10】・・・学校に背をむける子どもたち、子どもたちの居心地、ストレスからの解放、教師と子どもたちとの連携、教師集団の協力体制、地域社会との連携、開放的な学校、多様な価値観の必要性、子どもの権利の尊重、教科外活動の充実、「過剰教育」からの解放
- ・体罰に依存する教師【10】・・・体罰の禁止、日常化している体罰、体罰の背景、体罰に対する教師の意識、子どもに体罰を加えた教師、教師の体罰と子ども、教師の体罰による問題状況
- ・校則（生徒心得）による管理【10】・・・校則（生徒心得）の教育的意味、学校における規則の具体的な内容、校則指導に関する矛盾的状况、校則に管理される子どもたち、校則の内容に関する問題状況
- ・校則（生徒心得）の曖昧性【10】・・・校則（生徒心得）指導に関する不可解な現実、校則見直しの実施、変わらない校則による生徒「管理」、校則（生徒心得）に関する歴史的経緯、曖昧な校則（生徒心得）の性格、校則指導の今後
- ・学校文化と生徒集団【12】・・・学校文化と生徒指導、生徒と生徒集団の理解、教師集団の指導
- ・教師生徒関係【12】・・・教師の生徒認知と指導態度、教師期待と指導行動、教師のリーダーシップ
- ・学習指導と生徒指導【12】・・・相互学習文化、ラベリング理論とピグマリオン効果
- ・キャリア教育【12】・・・職業的社会化としての生徒指導、キャリア教育の源流、わが国におけるキャリア教育、社会化と発達
- ・生徒指導と家庭との連携【12】・・・家族形態の変化にともなう教育環境の変容、家族周期(ライフサイクル)と教育環境の変化、教育環境と山村留学、山村留学の効果について(放送教材より)
- ・生徒指導をめぐる諸問題の考察【13】・・・学校週5日制と生徒指導、性教育とは、生徒指導と人権教育、同和問題と生徒指導、学校と家庭・地域との関連を考える、現代における生徒の生活は

分類の結果は、以上のとおりである。これらのうち(1)基礎的・総論的分野について検討してみる。

テキスト番号【4】、【5】、【7】は、章のタイトルを「生徒指導の意義と課題」としている。テキスト番号【2】は、「生徒指導の課題」とタイトルしているが、節で生徒指導の

意義について説明している。テキスト番号【9】は、「生徒指導の教育的意義」とタイトルしているが、節で「生徒指導の機能と課題」が入っている。テキスト番号【13】は、「生徒指導とは何か」とのタイトルであるが、生徒指導の意義と課題に触れている。以上から、生徒指導の意義と課題について説明しているテキストが、6冊であることが分かる。

章のタイトルを「生徒指導の理念と歴史」としているものは、テキスト番号【6】、【12】の2冊であった。

(2) 内容的・方法的分野について検討すると、次の通りである。

内容的分野では、特別活動と生徒指導【1】、道徳教育と生徒指導【3】といった章が見られるが、生徒指導と教育課程【4】とのタイトルのもとに、節で教科、道徳、特別活動、進路指導としているものもある。テキスト番号【7】および【13】もおおむね同様である。テキスト番号【3】は、道徳教育だけでなく、別の章で「学校教育の基本的構造と生徒指導」とのタイトルの下に、教科外・特別活動と生徒指導および教科指導と生徒指導といった節を設けている。以上から、内容的分野として扱いに程度の差はあるが、共通項として特別活動・道徳教育・教科指導と生徒指導のかかわりについて、論述されていることがわかる。

方法的分野では、「個別指導」の文言が入っている章のテキスト番号は、【5】、【7】、【13】である。また「集団指導」の文言が入っているテキストは、番号【7】、【13】である。なお、テキスト番号【8】は「生徒指導の方法」との章のタイトルのもとに、個別的指導及び集団的指導の節を設けて説明している。このように方法的分野では、個別指導と集団指導が共通する内容と言えよう。

なお、(3) 児童・生徒理解以下の各分野の検討については、紙幅の関係で省略する。

次に、この分類とも関わって、いくつかの観点から考察してみる。例えば、編集者の専門分野（心理学系、教育学系）との関係でテキストの内容に相違が無いかどうかを検討した。テキスト番号【3】と【8】は編集者が心理学系であるが、執筆者の中に教育学系を含めて総合的な観点から内容構成がなされている。テキスト番号【12】は教育学系の編集者であるが、心理学系などの執筆者を加え(6人中2人)、内容構成に偏りが無いように工夫されている。

それから、執筆者が一人の場合と複数の場合の比較を試みた。執筆者が1人のケースは、テキスト番号【10】のみであり、他の12冊は複数の執筆者である。テキスト番号【10】の場合は、一定の観点から体系化・構造化されているところに特色があると思う。共同執筆の場合、総合的・総論的傾向がうかがえる。

同じ機関〔放送大学〕から発行されたテキストとして、テキスト番号【10】と【12】がある。ところが、両テキストの内容構成にかなりの違いが見られる。このような事例をみると、生徒指導の捉え方に相違があり、生徒指導のテキストの標準化の困難さがうかがえる。

次に進路指導を章として含んでいるかどうかを調べてみたところ、含んでいるテキストは、番号【1】、【5】、【6】、【7】、【9】、【11】、【13】の7冊。テキスト番号【2】(節)、【3】、【4】(節)、【8】、【10】、【12】は含んでいなかった。なお、文中の(節)の表記は、節として含まれ、説明されていることを意味している。

教育相談についてはどうか。含んでいるテキストは、番号【1】、【3】、【4】、【9】、

【11】の5冊。章として含んでいないテキストは、番号【2】(節)、【5】、【6】(カウンセリングはあり)、【7】(節)、【8】、【10】、【12】、【13】(節)の8冊であった。教育職員免許法施行規則では、小学校・中学校・高等学校の専修免許状、一種免許状、二種免許状取得において、生徒指導、教育相談(カウンセリングを含む)、および進路指導含めて4単位が必要とされる。テキストの編集において、このような面からも標準化に困難が伴う。

### 3. 索引の分析

章や節の他に、索引もテキストの内容を分析するための有効なツールとなる。索引はテキストのなかで用いられている重要な語句や事項を巻末に配列したものであり、それを見れば各テキストがどのような内容を取り扱っているのかをおよそ知ることができる。

テキスト13冊中、索引を設けていたのはテキスト番号【6】、【11】、【13】を除く10冊であった。この10冊には、延べ3,053項目の索引が掲載されていた。最も多くの索引項目を掲載していたのはテキスト番号【10】(484項目)であり、逆に最も少ないのは番号【4】(159項目)であった。

全索引項目数＝延べ3,053項目

【1】418項目、【2】261項目、【3】315項目、【4】159項目(最少)、  
【5】190項目、【7】470項目、【8】190項目、【9】236項目、  
【10】484項目(最多)、【12】330項目

出現冊数4冊以上の項目(4冊以上のテキストにおいて索引として掲載されていた項目)をすべて列挙したのが表1である。類似性の高い項目がある場合、代表する項目でまとめ、それ以外のものを――→として例示した。例えば、「ガイダンス」という項目を索引に掲載していたのは4冊であるが、「ガイダンス・アンド・カウンセリング」など類似表現を合わせると8冊になる。どのような項目をまとめるべきか、まとめずにおくべきかについては、恣意的にならないように配慮しつつ筆者の判断で行った。出現冊数は類似表現を加えた数にもとづきソートしている。類似表現を加えない数も( )付きで示した。

表1には69項目あるが、そのうち8冊以上のテキストに掲載されていた項目、つまりほとんどのテキストで掲載されていた項目は、「カウンセリング」、「ガイダンス」、「共感的理解」、「校内暴力」の4つのみであった。つまり、テキスト間に共通する索引項目は限られていることがわかる。逆に、1冊のテキストにしか掲載されていない項目は2,093項目にも及び、全体の約7割を占める。索引項目から見る限り、各テキストは共通性よりも相違性が高いことがわかる。

ここで1冊のテキストだけが取り上げている索引項目、つまりそのテキスト以外には索引項目として掲載がなかったものの中から各テキスト1項目ずつ紹介してみると、次の通りである。

母子随伴登校【1】、シンデレラ・コンプレックス【2】、少年先鋒隊【3】、青少年団体【4】、参与的観察【5】、チャイム席【7】、しろうと理論【8】、WISC知能診断検査【9】、マニュアル願望【10】、割れ窓理論【12】

索引項目の取り上げ方には、テキストによって違いがみられる。例えばテキスト番号【10】は「いじめ」関連の項目を数多く掲載している。それらを列挙するならば、「いじめ」、「いじめ行為」、「いじめ事件」、「いじめ社会」、「いじめっ子」、「いじめという行為」、「いじめの構図」、「いじめの構造」、「いじめの手口」、「いじめられっ子」、「いじめられる」である。

表1 索引項目と出現冊数（4冊以上）

出現冊数	項目	類似表現
9 8(4)	カウンセリング ガイダンス ――→	ガイダンス・アンド・カウンセリング ガイダンス運動 ガイダンス導入期 ガイダンス理論
8 8(7)	共感的理解 校内暴力 ――→	校内暴力問題の指導
7	教育相談	
7	児童相談所	
7	登校拒否	
7	特別活動	
7	非行	
7	問題行動	
6 6(4)	いじめ エリクソン (Erikson, E. H.) ――→	エリクソン エリクソン, E. H.
6	学習指導要領	
6	個別指導	
6	集団指導	
6(3)	神経症 ――→	神経症習癖 神経症症候群 神経症の類型 強迫的神経症
6	生活指導	
6	生徒指導	
6	生徒理解	
6	反社会的行動	
6(4)	ロール・プレイング ――→	ロール・プレイ ロール・プレイング法

5(2)	学力 ――→	学力検査 学力差 学力偏差値
5	学級活動	
5	学級経営	
5	学級崩壊	
5	学校行事	
5	家庭内暴力	
5(4)	クラブ活動 ――→	クラブ・部活動 全員参加の部活動
5	個性	
5	進路指導	
5(4)	ソシオメトリックス・テスト ――→	ソシオメトリックステスト
5(1)	地域 ――→	地域（社会） 地域コミュニティ 地域社会 地域社会（コミュニティ）
5	非社会的行動	
5	不登校	
5	面接法	
5(2)	来談者中心療法 ――→	来談者中心的立場 来談者中心的カウンセリング 来談者中心的カウンセリング
5(4)	リーダーシップ ――→	リーダーシップ能力
5(3)	ロジャース (Rogers, C. R.) ――→	ロジャーズ, C. R.
4(2)	アイデンティティ ――→	アイデンティティ拡散 アイデンティティの混乱
4	エンカウンター・グループ	
4(3)	カウンセラー ――→	カウンセラーの目標
4(3)	カウンセリング・マインド ――→	カウンセリングマインド

4(2)	開発的生徒指導 ――→	開発的指導・援助 開発的指導
4	学級集団	
4	教科指導	
4	共感	
4	校則	
4(3)	行動療法 ――→	行動療法的
4	自我同一性	
4	受容	
4	職業指導	
4	自律神経失調症	
4	心身症	
4	診断	
4	進路指導主事	
4	ストレス	
4	青年期	
4	性非行	
4	体罰	
4	テスト・バッテリー	
4	道徳	
4	道徳教育	
4(3)	ピグマリオン効果 ――→	ピグマリオン効果（ローゼンサル効果、教師期待効果）
4	不適応	
4(3)	フロイト(Freud, S.) ――→	フロイト
4	暴走族	
4(2)	ホームルーム活動 ――→	ホームルーム ホームルーム活動
4(2)	モラトリアム ――→	モラトリアム人間
4(2)	薬物 ――→	薬物非行 薬物乱用

#### 4. テキストにおける特色や工夫されている点の考察

次に、テキストの特色や工夫されている点をいくつかの観点から検討してみたい。1点目として、第1章の内容分析を行った。第1章において、テキストの全内容を基本的に方向付けるケースが見られないかどうかを調査したかったからである。その結果、おおむねこのようなねらいで書かれているテキストが多く見られた。これらのテキスト番号は、【2】、【3】、【4】、【5】、【6】、【7】、【9】、【11】、【12】、【13】の10冊である。残りの3冊（【1】、【8】、【10】）のテキストは、「問題提起型」とも性格づけられる内容であり、最初に学生の生徒指導に対する興味・関心を高め、学習意欲の喚起をねらったものと考えられる。

2点目として、トピックスの挿入などの工夫が見られないかどうか点検したところ、テキスト番号【9】は一部の章の末に〔coffee break〕として、例えば<遅刻の指導><指導の3形態>等の提示がみられた。またテキスト番号【13】においては、各章の終わりに「重要語句の解説」と「課題」が盛り込まれていることが分かった。

3点目として、各章の冒頭に章のねらい・概要・ポイントなどを提示して学習効果を高めようとする工夫がなされていないかを確認してみた。その結果、このような試みが、テキスト番号【1】、【2】、【5】、【8】、【12】、【13】の6冊でなされていることが分かった。タイトルの無いものもあるが、「学習の要点」、「はじめに」、〔概説〕などのタイトルをつけているテキストも見られた。

4点目として、講義の回数を意識したテキストは無いかどうか見てみた。テキストは主に講義用のものであり、2単位、12～15回の講義回数である。テキストのはじめに、この点を明記したものがテキスト番号【11】であった。「まえがき」に、「12コマ程度履修できるように内容を工夫した」と述べられている。

5点目として、視覚に訴え学習効果を高めるため、写真・図・イラストなどを挿入するといった工夫がなされているか点検してみた。そうしたところ、テキスト番号【10】を除くすべてのテキストで、程度の差はあれ、このような工夫がなされていた。

6点目として、「理論と実践の統一」の観点からの一つの試みとして、執筆者の中に小・中・高校の現職教師が含まれていないかどうかをチェックしてみた。すると、テキスト番号【9】では小学校と中学校の現職教師が各1名、執筆していることが分かった。なお、テキスト番号【6】では、「まえがき」に、「執筆者はいずれも小・中・高校の現場での長く、豊かな経験をもっている」と紹介されているケースも見られた〔執筆時には小・中・高校の現職教師ではない〕。

7点目として、生徒指導に対する受講学生のイメージとの関係で配慮がなされていないかどうか調べてみた。そうすると、テキスト番号【1】の第1章第1節「生徒指導についてのイメージ」について紹介・考察されていることがわかり、興味深く思えた。

ちなみに、田代が今年〔2007年、平成19年〕の6月に、山口芸術短期大学の学生を対象に「あなたは「生徒指導」について、どのようなイメージを持っていますか」との設問の下に、調査したところ、次のような結果が出た。①「明るい」イメージか、「暗い」イメージかを尋ねたところ、〔明るい〕32人（27.1%）、「暗い」84人（71.1%）であった〔無回答が2人、1.7%〕。また②「かた苦しい」イメージか、「楽しい」イメージか、では、「かた苦しい」113人（95.8%）、「楽しい」3人（2.5%）

であった。無回答は2人、1.7%であった。このように生徒指導に対しては、マイナスイメージが顕著であることがわかった。生徒指導のテキストの内容設定ともかかわるのではないだろうか。

## 5. 総括

以上、本稿では、生徒指導のテキスト13冊の章・節の分類、索引の分析、テキスト編集上の特色・工夫に関して資料提示を主なねらいとして紹介に努めた。これらの資料が生徒指導のテキスト開発とカリキュラム改善にあたって、幾分でも参考になれば幸いである。

## 参考文献

- ① 文部省『生徒指導の手引き（改訂版）』大蔵省印刷局、1986年（4刷）
- ② 八並光俊「テキスト分析による生徒指導知の標準化に関する基礎的研究」『兵庫教育大学研究紀要第1分冊学校教育、幼児教育、障害児教育』2000年
- ③ 国立教育政策研究所生徒指導研究センター「「社会性の基礎」を育む「交流活動」・「体験活動」―「人とかかわる喜び」をもつ児童生徒に―」平成13.15年度文部科学省委嘱研究「児童生徒の社会性を育むための生徒指導プログラムの開発」2004年3月、<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/syakaisei.pdf>
- ④ 森谷寛之・田中雄三共編『生徒指導と心の教育 入門編』培風館、2005年（初版第3刷）
- ⑤ 田代直人・佐々木司編『教育の原理』ミネルヴァ書房、2006年（初版第1刷）
- ⑥ 国立教育政策研究所生徒指導研究センター「生徒指導体制の在り方についての調査研究報告書―規範意識の醸成を目指して―」、2006（平成18）年5月、<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/seito/seitohoukoku.pdf>